

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700375		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらん 2		
所在地	福島県須賀川市東作22-8		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年4月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すずらんはコロナ禍でも家族と同居者の絆を大事にしています。春は利用者ご家族の思い出の地にてお花見をするためにご家族と協力して前もってワクチン接種を行うことでそれぞれの思いのある場所で花見が行え利用者の普段とはまた違った笑顔、威厳のある表情を見ることができご家族、職員も楽しいだけでなく嬉しさを感じることができました。また外出では自宅に行き空気の入れ替えをしたり、家族水入らずで過ごす時間も持つことができました。面会も玄関ではありましたが前もって連絡が来ているため玄関を温めくつろぎやすい環境を整えることでご家族も安心して時間を過ごし面会の回数も減ることがありません。普段から担当職員が責任を持ちご家族とお話をする時間を持つことを大事にしているためご家族の協力のもと行うことができています。今年度は長年利用されていた方の看取りが4件ありました今までの関係性とご家族の思いを聞き連絡を密にすることで看取りの時をご家族が寄り添って行うことができました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分が住みたい我が家という理念に基づき家族、慣れ親しんだ町、行事、季節季節で出回る地場の産物を実感できるように職員、「ご家族の協力の元に行動に移している。例えば年末の餅つきをご家族と行う機会を作った。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や今までのつながりを生かして取り組んでいます。回覧板を回していくこと、利用者の作った折り紙を保育園の行事に生かしていくこと、町内会長が参加しての避難訓練を行った。町内会長からは災害時に地域側とホーム側それぞれの長所を生かして助け合う提案をいただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単位での認知症ケアといった所での地域への取り組みは十分には行えてはいない。法人としては伴走型支援、ポータンカフェ、FMラジオでの発信を行っている。保育所に利用者が作った箱を提供していることが今年できたことである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染状況を伺いつつ資料のみの配布か時間を短縮しての開催を行っている。今年度は技能実習生2名がベトナムから来ており同じ地域に住んでいる町内会長からは会議を通して地域の1員とし近所の方との挨拶を大切にしたいと意見をいただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望をされている方の生活を支えていくために他事業所のケアマネージャー、須賀川中央包括支援センターの方と話す機会を作っている。それぞれの立場でどのようなことを行っているかを話し合い少しずつ良い方向に変化をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	倫理委員会より不適切ケアの理解を周知把握をする時間を設けている。また事業所としての取り組みとして会議を通じて行っていけないことを伝えるだけではなく、職員のメンタルを考えてどうすることで不安を解消し適切なケアを行っていくかという視点で会議を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職場内にも虐待防止の3原則、バISTEックの7原則をいつでも見れるように掲示している。利用者の皮膚の変化などを見逃さないようにし何故？と原因を考える機会を朝のミーティングで共通理解し原因と再発防止を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	レベルアップ研修で理事長の講義の中で学ぶ機会を作っている。現在成年後見人制度を利用している利用者の安心できる生活を送ることができるように実際にも学ぶ機会も持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはこちらからの一方的な話にならないようにご家族や本人と確認を取りながら説明を行っている。また入居前に契約書、重要事項を事前にお渡しし契約時に不明な点から話すことにも取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は3年ぶりに家族会を開催した。入居者も変わり始めて家族会に参加される方たちもいる中、古くからの家族からの働き掛けもあり意見がいろいろ出た。また法人からはNPO法人豊心会満足度アンケート調査を毎年行っており年々内容をわかりやすく答えやすいものに変化することで回収率があがっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは年に1度～2度は面談を行う機会を設けている。面接の時に話しづらい、緊張して話せなかったということにならないように管理者は日ごろから職員と話す機会を密にしている。また、リーダーを通して職員の思いを確認し早めに対応をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握するために各ユニットのリーダーと会議を行う日を作り会議内容に職員の項目を入れている。ほかにも管理者から話を持つ機会を増やし職員それぞれの行っていることの確認、不安箇所を知り翌月のリーダーとの会議に取り入れ変化させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	7月から技能実習生2名が配属となり職員を担当につけること、また事前準備から職員と行ってきたことで実習生に伝えることなどをわかりやすくすることが職員にとっても自身の知識、技術の振り返りにもなっている。法人内の研修も今年はグループホームケア実践士(ブロンズ級)を得ることができた職員がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人の入居担当として住宅支援事業所のケアマネジャーと関わる機会が増え、利用者を見る視点が増えた。また一部の職員になっているが入居希望者宅へ訪問調査に同行することで見識が増え新しく入った入居者に対しても取り組みが受け身ではなくなってきている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の自宅での環境に近いレイアウトにして安心感を持ってもらう。場所がわかるまで一緒に行動してお話にもしっかりと耳を傾け安心して過ごせるように努めています。家族とも会えること伝えていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時、契約時とご家族の想いを聞くことに努めている。GHが大事にしていることを伝え協力していただける部分を具体的に確認している。また利用者の担当職員との関係を築くために連絡を早めから担当職員が行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーや他事業所の担当職員との連携と話をするご家族もキーパーソンになる方を1人と決めずに関りのある家族にも確認を取っていただき支援の見極めに対して出来るだけ多面で考えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることの見極めをして、本人の希望と意欲も見ながらできることはしていただいています。自分からやってくれるような働きかけもしたり他入居者様とのかかわりで助け合う事も促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望する事や病院の受診などでも、ご家族にお手伝いしていただけるようお話ししている。そういうことで少しでも、利用者のご家族との関わりを大事にして一緒に過ごす時間を作り花見と年末の取り組みには参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族からの情報と希望によりなじみの方との時間を設けたり、なじみの場所に行くこともあります。また、相手からの希望があれば日程の調整をし、お会いする時間を作っています。また、本人が好きな巨人戦を観に開成山球場に行くことができ笑顔見ることができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話し合う方との時間を過ごしたり、家族が持ってきてくれたお土産を自分で提供することもあります。動ける方は他の利用者の分も下膳と配膳をして下さりありがとうございますと感謝を述べあう姿もあります。職員がきっかけを作るとあとは利用者同士が話し合っ歌を合唱される姿もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度GH事業所の取り組みから以前利用されていたご家族との関係が再び生まれ季節の変わり目や新年の飾りつけとして生け花をホームに飾っていただいている。また直近では利用終了された方のご家族に運営推進会議の協力を依頼すると快く承諾して頂ける。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしで大切にしている事、こだわりを本人からだけでなくご家族からも情報を得ている。また自分からは伝えることのできない方にはご家族や知人との会話の中で情報を得て少しでも本人の思いに沿うように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるときに情報得て、会議で全員情報の把握に努めている。一つでも多くの情報を得られるようにホームに来られる親戚の方、ご友人からも利用者と一緒に話しているときに職員も会話に加わり情報を集めている。その情報は申し送りなどで記録し共有しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤時にタブレットの申し送り確認と利用者皆さんに挨拶をしながら実際の様子を確認することで理解に努めている。また朝のミーティングと職員同士のミニミーティングで情報を共有し実際のケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の希望や願いを日々に生活の中で聞き逃さず、職員で共有している。その中で家族様にもお話をし意見やアイデアを話し合い支援するための計画作成のためにアセスメントやプランに反映させております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や、申し送り個別ノートなどでみんな共有して考えて計画に反映させている。また、利用者様の日々に変化などはご家族にいち早く現状を正しく報告し、ご家族の考えも入れて計画に出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望で感染対策の協力も得て、温泉に家族旅行に行かれた利用者がいます。すずらんIでは空いている居室をご家族、市と確認を取り在宅で対応が難しく緊急に宿泊できる場所として短期入所を受け入れたことがあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染が落ち着いている時期にご家族と相談しかかりつけの美容室の人が少ない時間に通っており利用者がホームに戻ってきたときの表情がとて良く「次はいつ頃」と話されている。面会ではご家族の確認のもと関係性がある方の面会もワクチン接種回数、抗原検査を受けることで行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前にかかっていた病院受診を続けることをご家族と相談し行っている。また体調変化のない限りご家族が受診を担当し医療とのやり取りを直接行うことを大事にしている。看取り期に移行する際はご家族とのやり取りを増やし希望を確認しそれに合った医療に移行することがある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化のある利用者様については週一回の看護師による健康チェック時に相談し指示を受けている。また、当法人の会長が看護師の為緊急時には状況に応じて訪問を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけご家族と一緒に医療からの説明を受けている。またその際にはご家族が1番心配される退院後までの流れまでを話すことにしている。また入院中はご家族、医療とやり取りをし利用者が安心できる時間を持てるように写真に文章をつけてミニアルバムを作って入院中の安心できる時間を過ごしてもらるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の変化、寝る時間が増えてきた、食べる量が減ってきたという加齢とともに起こる変化や予測できる急激な変化を含め、その都度ご家族と話をし書類を通してやり取りをする機会を増やしている。ご家族に希望に添えるように選択肢を広げて話を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡体制を示したものは設置や表示は出来ている。ただ実践で職員ができることは十分ではなく職員の経験年数や能力によって違いはある。現在は管理者、リーダーに報告を入れることを行うことを指示することを基準としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を中心にハザードマップで事業所で起こりうることを想定しての災害訓練を行っている。また職員全員が共有しておかなくてはならないこととして消防への連絡は大きな訓練がない月も行っている。また今年度は町内会長が訓練に参加され地域でできることの提案をいただいている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときはいかなる場合もノックをして声をかけて入るようにしている。排泄を表す表現として数字に置き換えて職員同士が確認しているが、時にそのままの表現をしているときがある。利用者のファイル等は書庫にて管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事に関して、食事前に好き嫌いを確認を行い代替えにすることもあります。おやつ飲み物は何が飲みたいか毎日希望のものを選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況を職員個々で判断しないことで利用者に合わせて過ごし方を考えるようにしている。同時に利用者と一緒に考えることで出来るだけ希望に添えるようにしている。またすぐには出来ないこともカレンダーに記入して実現出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら決定できない利用者には本人、昔の写真や家族様からの話を聞き本人が着こなしてきた服装に近づけるように支援している。ただその日の天候に合わせて職員が決めていることがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	毎年正月は利用者の希望を聞きここ数年はタラバガニを目の前で焼いて食べている。またツボ焼き芋を目の前で作り食べたり、利用者が美味しいと話す店に饅頭や豆腐を買いに行っている。出来るだけ食べるまでの過程を大事にすることで楽しみにつなげている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日によって食べる量が少ない、おいしいも水分に関してもすぐにわかるように記録していますので職員同士共有しています。食の細かい方に投入や甘酒を飲んでいただいたり昼食が食べられないときにはおやつにぱんをたべることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きできる方にはしていただく声掛けをして難しい方には口腔シートでケアをしています。歯が欠けたり不具合が生じた場合には状況に応じて歯科受診しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ利用者自身がトイレへ行くことができるようにトイレまでの導線上に手すりまたは手すり代わりにするようにタンスや椅子を設置している。また、介助が必要な利用者には便座に座位された時のためにひざ掛けを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対して服薬とすぐに結びつけるのではなく毎日の食事や飲み物を工夫すること、また体を動かすことを第1に考えて対応している。またご家族へ相談することで何が良いか一緒に考え飲み物を持ってきていただいたりもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時にはこちらの都合になる事もありますが、入浴のタイミングは本人に伝え確認しております。寝る前に希望の方には、時間を伝え希望に添えるようにしています。湯温もそれぞれですので把握してすこしでもいいお湯だったと喜んでもらえるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内には各所に椅子が設置しており利用者のパーソナルスペースになっている。また気持ちよく休んでいただくために入浴を就寝前に行う利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方を利用者ごとにまとめてファイリングしており職員がいつでも見ることができるようになっている。服薬の変更がある際は管理者から説明をし3日1週間2週間1か月と期間で変化がないか確認をしている。また、服薬まで確認を3回は行い誤薬が起きないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り、米作り、干し柿づくり、季節感を味わえるドライブ、食べたいものを聞いての提供など1年を通して利用者の楽しみを持てる取り組みを行っている。利用者が受け身ではなく自ら動きたいと思っただけのように段取りを踏んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただくこと、楽しみを持つこと、いつもと違った表情、行動を見せていただけることとして外出は大事にしている。利用者の希望を聞きコロナ対策のもと最近では初詣、白鳥見学に出かけている。職員にとっても仕事のやりがいに繋がっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が実際にお金を所持している方は少数でほぼご家族から預かっているお金を鍵付きのロッカーの保管している。実際にお店でお金を出す機会は少なく利用者から頼まれてお金を預かり購入したり、預かっているお金から本人の希望のものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから用事がある時に一緒にお話をしたり、生活の中でお話が合った時にその場で電話をすることもありますが、お仕事などで連絡がつかないこともありますので職員が連絡し本人の希望を伝えることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が見て現在の状況がわかるように利用者と一緒に作成した季節を表す花の絵や干支やこれからの行事の予定とカレンダーなどを設置していることで利用者から職員に行事のことを聞いてくるが増えている。また温度計、湿度計をいくつか設置しておくことで客観的に環境を確認でき調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの中にはいたるところに椅子やソファを設置している。それが利用者のパーソナルスペースを作り出しておりそれぞれの安心できる場所を持ちながら利用者がお互いに声をかけ一緒に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者自宅での間取りをもとに居室の配置にしている。また、居室内で過ごすときに趣味の折り紙や俳句などの飾りつけ、ご家族やホームで行ったことの写真を掲示しておくことで、それらを見て安心につなげるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人がわかりやすくという面と本人の好みに合わせてという面からという、2つのパターンで表札を作っている。また表示しているものの高さを利用者の目線に合わせて低く設置されている。		